

小谷 英文先生のご功績 Tribute to Dr. Hidefumi Kotani

西村 馨 NISHIMURA, Kaoru

● 国際基督教大学
International Christian University

思うに、小谷先生がICUに着任されたのは、臨床心理学志望の学生を指導できる本格派が必要だったためだろう。そして小谷先生ご自身、心理療法を普及させる使命感を強くお持ちだったろう。結論から言えば、1986年のご着任以来、先生はその重責を背負いながらICUというリベラルアーツ大学に臨床心理学の訓練プログラムを打ち立て、世界の拠点にするという大仕事を果たされた。

小谷先生の原点はCarl R. Rogersの来談者中心療法、そしてエンカウンターグループにある。先生は、Rogersが1975年に主催したPerson-centered Approachのワークショップに参加した3人の日本人のうちのお一人である（他の2人は元ICU教授の故都留春夫先生と平木典子先生）。その後、（これも元ICU教授の）故土居健郎先生との衝撃的な出会いを経て、精神分析、集団精神療法を学ばれるためにニューヨークのAdelphi University G. F. Derner Institute of Advanced Psychological Studiesに留学なさり、その間にNew York University Postgraduate Medical Schoolで集団精神療法の訓練課程を修了された。運命は、ICUをロジャース派の精神とフロイト派の精神を統合する場にするよう導いたかのようなのである。

とはいえその道のりは決して平坦ではなかった。大学・大学院での臨床の訓練・研究においては長く孤軍奮闘の辛苦に耐えられた。しかしその間も、先生の情熱に惹かれた臨床家志望の若手が

集まり、それぞれ後に重要な仕事をするようになった。おそらく、小谷先生の薫陶を受けた臨床家はみなプロとしての高い意識とgenuineであることをこの上なく重視しているだろう。それ自体、フロイト派とロジャース派の結晶とも言えるが、それだけではないだろう。

先生は、社会、家庭、学校などのさまざまな状況の中で「心」が喪失してしまうことに強い危機感を常に持っておられた。危機感の乏しいリーダーへは厳しい批判を向けるとともに、「心」を護る専門家の姿勢と必要性を、気魄を込めて説いておられた。その熱意に打たれて指導を求めた施設、学校、病院、教育委員会、企業の関係者は実に多い。

研究業績は膨大であるが、後に重要なキーワードとなる『心的安全空間』、クライアントの攻撃性や愛情を治療者が受け止めていく治療論、『教育的対話』、『自我の錬磨』、『アイデンティティグループ』の萌芽は、すでに初期の業績群に見出すことができる。すなわち、問題を呈する孤独な個人が持つ心理的な安全をどう護り、拡げるかという営みに、嘘のない「人として」どう関わるかというテーマである。そのテーマを、先生は長年にわたって展開し、見事に開花させられた（門下生の一人として言えば、genuineな小谷先生に直に接することができたことは何よりの臨床訓練で、その恩恵にあずかることができたことは幸運であった）。

その成果の理論化は、一般システムズ理論を媒介して精神分析と来談者中心療法を統合する精神分析的システムズ理論（PAS理論）の構築や、量子力学等を取り込んだ心理力動、心理療法過程の数式化、可視化という非常に独自の、領域を超えた枠組みとして結実している。

小谷先生の業績の中でも集団精神療法に関するものは、特に広く知られている。それは、日本集団精神療法学会の草創期を支え、その発展をリードする貴重なものであった。統合失調症者の脆弱性を護り、境界例の破壊性に向き合い、青年・成人の自我の成長を図るというグループ技法論には、「人がいられるグループを創る」という思想に貫かれている。その手法は、『21世紀COEプログラム』での活動において、海外からの共同研究者も多く招いてさまざまに実践され、海外からの注目も浴びた。近年では、東日本大震災で被災された方々への心理的支援を被災地で定期的に展開してこられたが、ここでもグループが重要な役割を果たしている。日常が壊れ、組織が責任を取れない中、心の安全空間を失った人々に個人、グループ、組織、地域社会への介入を通して対話を生み出し、心を再生する営みは、まさに小谷先生のテーマであった。

臨床家、研究者というだけでなく、発信者、問題提起者として、小谷先生は多くの研究会、学会、国際会議を主催された。先述のCOEプログラムでの各種会議の他、『「魅力ある大学院教育」イニシアティブ』における会議や松江での国際集団精神療法集団過程学会環太平洋会議・国際力動的心理療法研究会大会は、とりわけ意義深いものである。これらの企画を通して内外の大物と出会うことができたことは、学生にも教員にも貴重な体験だった。学会にとどまらず、小谷先生のお話は魅力的で、一般の方を対象とした心理相談室オープンハウスでの講演も、ICU幼稚園で定期的開催されていたお話も、高大連携プログラムの高校生対象の授業でも人々を常に魅了し、幅広い年代層に支持されていた。

それらの多岐にわたるご活動はリベラルアーツ教育に反映され、狭義の臨床心理学というだけで

なく、人の成長、組織の成長、男と女、心と世界平和を考察する刺激を与えられた。TES導入以前のある年に、小谷先生の授業が「ICUで最も聞くべき授業」として学生から評価を受けたと伺っている。

ICUの教員として、また心理学デパートメントの同僚として、研究室や学科、研究科が混乱に陥った時、小谷先生の論理性と胆力と粘り強さでしばしば救われたことには特に感謝申し上げたい。これからも危機状態は続くであろうが、先生にご心配をかけることなく前に進みたいと思う次第である。

本当によく働かれる方であった。小谷先生はこれからも多忙な臨床家であることをやめないであろうが、ICUを去られ、大学教員を引退されるに際し、これまでのご貢献に深く感謝し、今後のご健康とますますのご発展をお祈り申し上げたい。

小谷 英文先生の略歴および主要業績

KOTANI, Hidefumi

History and Bibliography

生年月日 1948年1月21日

学歴

- 1970年3月 広島大学教育学部卒業 教育学士
1973年3月 広島大学大学院文学研究科 修士課程修了 文学修士
1975年3月 広島大学大学院文学研究科 博士課程退学
1979年6月 New York University Post-Graduate Medical School 修了
2012年3月 広島大学大学院教育学研究科 博士(心理学)

職歴

- 1975年4月-1984年3月 広島大学総合科学部 助手
1977年9月-1979年8月 Adelphi University G. F. Derner Institute of Advanced Psychological Studies, Visiting Professor
1984年4月-1986年3月 広島大学保健管理センター チーフサイコロジスト, 助教授
1986年4月-1990年3月 国際基督教大学 助教授
1990年4月-1996年3月 国際基督教大学 準教授
1996年4月-2013年3月 国際基督教大学 教授

担当した授業

- 学部科目: 生徒指導論, 教育相談 (旧「ガイダンス・カウンセリング」), 臨床心理学, 臨床心理学研究 (事例研究法), 組織開発の心理学等
大学院科目: 臨床心理面接特論 I (ガイダンス・カウンセリング), II (心理療法技法) 等

在職中の役職

- 教育学科長 1998年-2002年
学務委員会議長 2001年-2002年
大学院教育学研究科長 2002年-2003年
高等臨床心理学研究所所長 2001年-2013年
心理学デパートメント長 2008年-2010年

業績

A. 著書 (含教科書, 訳書)

- (編著)『逃げ場を失くした子供たち』 同文書院 1986年 (1990年改訂 『心の相談』)
(分担執筆)「集団精神療法の技法」『やさしい 集団精神療法入門』(山口・増野・中川編) 95-110 星和書店 1986年
(分担執筆)「集団心理療法」『臨床心理学大系第7巻 心理療法1』(小此木・成瀬・福島編) 239-269 金子書房 1990年
(編著)『ガイダンスとカウンセリング: 指導から自己実現への共同作業へ』 北樹出版 1993年
(共訳)『集団精神療法の理論—集団力学と精神分析学の統合』(M. Kissen 著) 誠信書房 1996年
(分担執筆)「精神分析的集団精神療法」『集団精神療法ハンドブック』(近藤・鈴木編) 121-130 金剛出版 1999年
(共編)『集団精神療法の基礎用語』 金剛出版 2003年
(編集)『[現代のエスプリ] 別冊 心の安全空間—家庭・地域・学校・社会』 至文堂 2005年
(分担執筆)「精神分析・集団精神療法のスーパービジョン」『[現代のエスプリ] 別冊 臨床心理スーパービジョン』(藤原勝紀編) 78-87 至文堂 2005年

- (分担執筆)「教育心理臨床におけるガイダンスと
カウンセリング」『[現代のエスプリ] 別冊
教育心理臨床パラダイム』(藤原勝紀編)
172-176 至文堂 2007年
- (編著)『ニューサイコセラピーグローバル社会
における安全空間の創成 (ICU21世紀COEシ
リーズ第3巻)』 風行社 2008年
- 『ダイナミック・コーチング—個人と組織の変革—』
PAS心理教育研究所出版部 2008年
- (編集)『現代のエスプリ504号 グループセラ
ピーの現在: 精神疾患集団療法から組織開発
タスクフォースまで』 ぎょうせい 2009年
- (編著)『現代心理療法入門』 PAS心理教育研究
所出版部 2010年
- (共編)『Creating Safe Space Through Individual and
Group Psychotherapy』 Organizing Committee of
8th Pacific Rim Regional Congress of International
Association for Group Psychotherapy and Group
Processes 2013年
- B. 主要研究論文**
- (学位論文)「現代困難患者の心理療法機序—新た
な人格変化理論の構築に向けて—」広島大学
(心理学) 2012年3月1日授与
- (共著)「'80年代のグループ・アプローチ: 世界
の動向とわれわれの課題」 グループ・アプ
プローチ Vol. 1, 41-61, 1982年
- (共著)「A Glossary of General Systems Terms Relevant
to the Fields of Group Dynamics and Group
Psychotherapy」 グループ・アプローチ Vol.
2, 45-55, 1983年
- 「神経症者の集団精神療法: 精神分析的集団精神
療法の接近法とその治療的意義」 集団精神
療法 Vol. 1, No. 1, 23-28, 1985年
- 「集団精神療法に関する訓練法の開発—シナリオ
ロールプレイ法の展開—」 集団精神療法
Vol. 3, No. 2, 179-185, 1987年
- 「集団精神療法の訓練における体験グループの意
義」 集団精神療法 Vol. 4, No. 1, 72-75,
1988年
- 「日本の集団精神療法の今後—体系的な訓練法を
探究する立場から—」 集団精神療法 Vol. 4,
No. 2, 141-146, 1988年
- 「心理臨床と学校教育の接面」 季刊精神療法
Vol. 14, No. 1, 5-11, 1988年
- 「難治性患者におけるシゾイド循環プロセスから
の脱却と集団力動」 集団精神療法 Vol. 7,
No. 1, 21-28, 1991年
- 「慢性分裂病者に対する期間制限集団精神療法
—技法構成と効果の検討—」 集団精神療法
Vol. 9, No. 1, 48-56, 1993年
- 「精神分裂病の集団精神療法技法—治療過程転回
点の力動と技法—」 集団精神療法 Vol. 10,
No. 1, 39-47, 1994年
- 「精神分裂病を中心とした慢性的精神障害者の集
団精神療法—基本枠組みと技法基礎—」 集
団精神療法 Vol. 11, No. 2, 127-137, 1995年
- 「集団精神療法の進歩—単独処方から多元統合療
法へ—」 最新精神医学 Vol. 2, No. 6, 527-
533, 1997年
- 「集団精神療法に関する大きな誤解」 精神療法
Vol. 24, No. 5, 52-54, 1998年
- 「小集団精神療法の臨床的基礎」 集団精神療法
Vol. 14, No. 1, 20-30, 1998年
- 「日本における集団精神療法の教育と訓練の経
験」 集団精神療法 Vol. 14, No. 2, 139-144,
1998年.
- (共著)「精神分析的システムズ理論による臨床
性格査定法—パーソナリティ・スタイル査
定—」 精神科診断学 Vol. 9, No. 4, 501-511,
1998年
- 「Aspects of Intrapsychic, Interpersonal and
Cross-Cultural Dynamics in Japanese Group
Psychotherapy」 *International Journal of Group
Psychotherapy*, Vol. 49, No. 1, 93-104, 1999年
- 「A New Combined Group Treatment for Adolescents
Considered to be Helpless in Japan」 *The
International FORUM of Group Psychotherapy*,
Vol. 7, No. 2, 18-20, 1999年
- (共著)「青年期アイデンティティグループ—性
愛性と攻撃性の分化統合を中核作業とする技
法の構成—」 集団精神療法 Vol. 17, No. 1,

27-36, 2001年
 「Safe Space in a Psychodynamic world」*International Journal of Counseling and Psychotherapy*, Vol. 2, 87-92, 2004年
 「Contemporary Meanings of Psychological Space for Dynamic Psychotherapy」*International Journal of Counseling and Psychotherapy*, Vol. 3, 31-48, 2005年
 「Amae as a Treatment Key for Psychosis and Other Difficult Patients: Madness, Dependency, and Safe Space」*International Journal of Counseling and Psychotherapy*, Vol. 7, 11-28, 2009年
 「East Meets West: Safe Space for Quantum Transition」*International Journal of Counseling and Psychotherapy*, Vol. 8, 21-33, 2010年

その他の出版物

(報告書)「『情緒障害児短期治療施設』(全国11施設)の記述比較研究」(杉山信作らとの共著)マツダ財団研究報告書, 第1巻, 1-10, 1987年
 (報告書)「精神科コンサルテーション・リエゾン医療等に関する研究(集団精神療法班)―集団精神療法の効果と基本枠組―」(長谷川美紀子らとの共著)厚生科学研究報告書 1-8, 1994年
 (冊子)「育つ心と育てる心」ICU高等臨床心理学研究所心理相談室 2004年
 (冊子)カオスと渾沌 ICU高等臨床心理学研究所心理相談室 2008年
 (モノグラフ編集)『心的安全空間―「人間の安全保障」の基盤―』(ICU21世紀COEプログラム「平和・安全・共生」研究教育:『心的安全空間の生成』グループ)国際基督教大学高等臨床心理学研究所 モノグラフ1号 2011年

C. 社会・学会等での活動

臨床的グループ・アプローチ研究会 代表 1982年-1990年
 日本集団精神療法学会 理事 1984年-1986年

日本集団精神療法学会 常任理事 1986年-2000年, 2005年-現在
 日本集団精神療法学会 学会誌編集委員 1986年-1993年
 Member of the Asian Regional Program Committee, International Association of Group Psychotherapy 1987年-2008年
 Liaison Co-Chair, 1st Pacific Rim Regional Congress 1987, Tokyo, Japan, International Association of Group Psychotherapy,
 日本集団精神療法学会 研修委員会専門委員 1988年-1993年
 日本集団精神療法学会 第9回大会大会長 1992年
 日本集団精神療法学会 学会誌編集委員長 1994年-2001年
 国際力動的心理療法研究会代表 1995年-現在
 国際力動的心理療法研究会 第2回, 第4回, 第13回, 第17回, 第18回大会大会長 1996年, 1998年, 2007年, 2011年, 2012年
 日本「心の教育」研究開発協会 主宰 1997年-1998年
 Editor, *International Journal of Counseling and Psychotherapy* 2001年-2013年
 第1回 国際カウンセリング・心理療法会議(The 1st International Conference of Counseling and Psychotherapy) 大会長 2002年
 日本集団精神療法学会 国際特別委員 2003年-2008年
 第2回 国際カウンセリング・心理療法会議(The 2nd International Conference of Counseling and Psychotherapy) 大会長 2004年
 第3回 国際カウンセリング・心理療法会議(The 3rd International Conference of Counseling and Psychotherapy) 大会長 2005年
 Educational and Training Committee Member, International Association of Group Psychotherapy 2004年-2007年
 第1回 心理療法の教育・訓練国際会議(International Training Workshop for Psychotherapy) 大会長 2006年

Scientific Program Committee member, and Referee,
International Association for Group Psychotherapy
and Group Processes 2006年-現在

第2回 心理療法の教育・訓練国際会議
(International Training Workshop for Psychotherapy)
大会長 2007年

Congress Chair, 8th Pacific Rim Regional Congress of
International Association for Group Psychotherapy
and Group Processes, 14th Congress of International
Association of Dynamic Psychotherapy 2008年

Nominating Committee of IAGP for President,
President-elect and Board Member, International
Association of Group Psychotherapy and Group
Processes 2010年-2012年

日本臨床心理士認定協会臨床心理分野の専門職大
学院の教育内容と方法に関するガイドライン
検討委員会 日本心理臨床学会代表専門委員
2010年-2011年

日本臨床心理士認定協会臨床心理分野の専門職大
学院認証評価「申し立て審査委員会」委員
2011年-現在

International Organization of Group Analytic
Psychotherapy, Founder Member, Faculty Member
2011年-現在

第31回国際心理学会議組織委員会 委員 2011
年-現在

震災復興心理・教育臨床センター（宮城学院女
子大学 発達科学研究所内）臨床オーガナイ
ザー 2011年-現在